美しい港まちづくり

築 地

～築地ポートタウン計画～ **概要版**

名古屋市住宅都市局・名古屋港管理組合

2015年6月

計画策定の趣旨

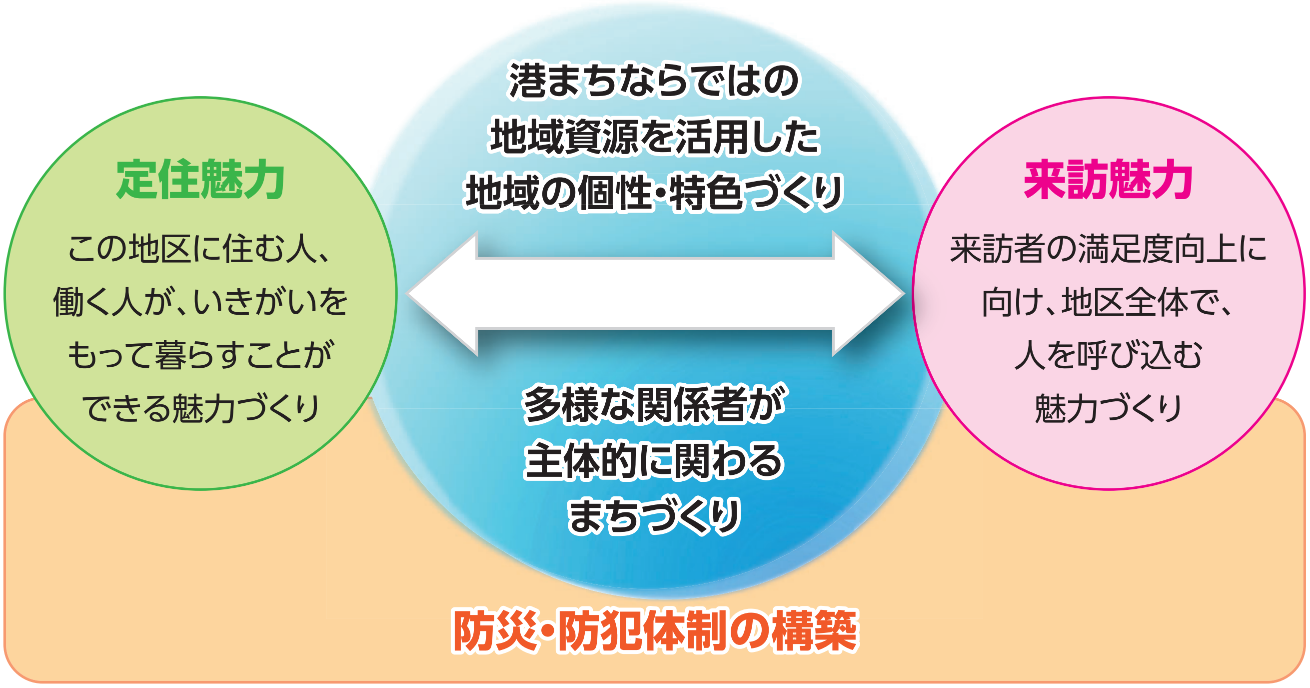
この計画は地区の将来像を明確にし、住民、企業、行政が共通の目標をもち、連携しながら港まちづくりを進めていくための指針として、平成3年に名古屋市と名古屋港管理組合により策定したもので、平成19年に改訂を行いました。

改訂から5年が経過したことから、近年の社会情勢を踏まえた上で、港まちづくり連絡会に「築地ポートタウン計画見直し案策定部会」を立ち上げ、地元住民・企業・港まちづくり協議会等が参加して見直しました。

計画見直しの視点

金城ふ頭開発・港明地区開発をはじめ、将来的にはリニア中央新幹線開業も見据えて、多くの来訪者を本地区に取り込むとともに、地区に愛着を感じる人を増やすために、必要な施設整備を行い、住民・企業・行政等、地域の多様な関係者による地域資源を活用した「定住魅力」「来訪魅力」が調和したまちづくりをめざします。

こうした取り組みを通じて、南海トラフ巨大地震の被害想定を踏まえた一層の防災力強化を図るとともに、地区の防災・防犯体制を構築していきます。

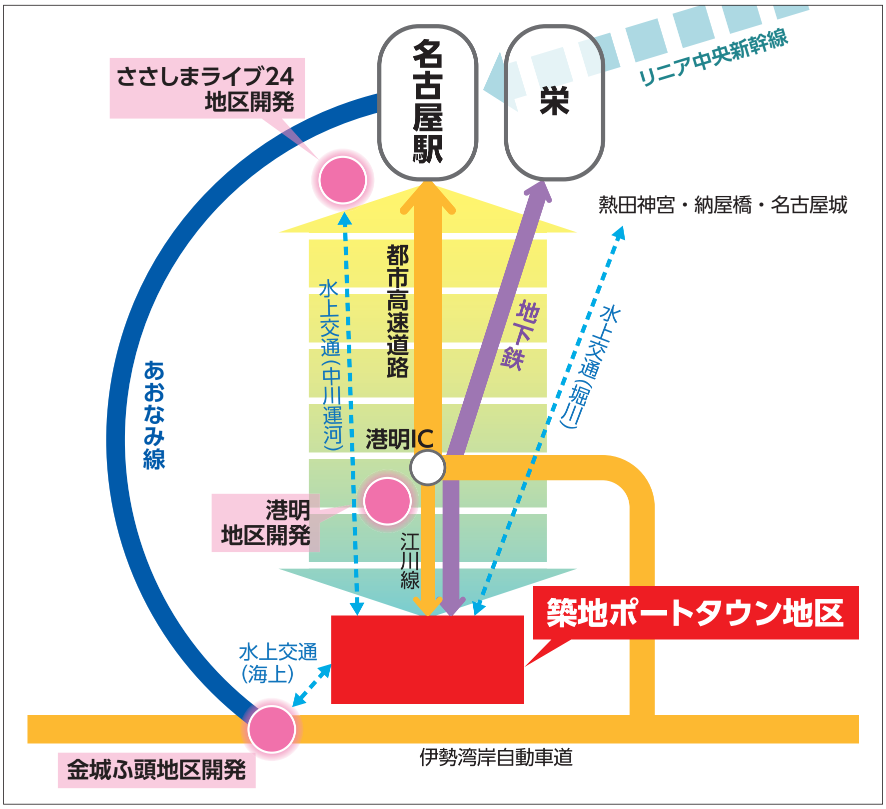


2027年（平成39年）を長期的な目標年次としつつ
概ね5年ごとに見直しを行います。

築地ポートタウン地区の特徴

地区内の状況

- 港まちづくり協議会等が、住民と行政の協働によるまちづくりを活発に行っています。
- 築地神社の祭礼など、他の地区では見られない魅力があります。
- ピーク時に比べて人口は半減し、高齢化が進んでいます。また、店舗数も減少しています。
- 多くの来訪者がいますが、回遊による地区全体の賑わいに結びついていません。



地区を取り巻く環境

- 地下鉄で都心に直結しているほか、名古屋高速道路「東海線」はじめ、名2環等の開通により、都心はじめ郊外へのアクセス性が飛躍的に向上しています。
- 平成29年度には、レゴランド開業、港明地区開発、グローバルゲート（ささしまライブ24地区）の開業、水上交通網の整備等、本地区を含む港エリアでの大きな人の流れの変化が予測されます。
- 行政主体で防災機能強化がすすめられる一方、市民においても、津波・高潮等に対する危機意識が高まっています。

地区の発展に向けて

周辺環境としては、これまでのインフラ整備等を通じて地区外からのアクセス性が高まっているほか、今後、港エリアでの開発、リニア中央新幹線開業等により、来訪者を呼び込む条件が整いつつあります。

こうしたなか、地区内においては、地域によるまちづくり活動が活発に行われていることを踏まえ、行政と地域が協力して、来訪者を呼び込む仕掛けづくりをすすめていくことが必要です。また、地区の活性化を図るため、住む人・働く人が地区に愛着を感じ、安心して暮らせるまちづくりをすすめていく必要があります。

主な取り組み例	実施主体
水上交通ネットワークの形成	名古屋市、名管、民間
道路空間・公園を活用した賑わい創出（イルミネーション、イベント等）	民間、住民
まち歩きがしたくなる環境づくり（散策ルート設定、ガイドツアー等）	名古屋市、民間、住民
災害時の避難誘導体制の構築	名古屋市、民間、住民

まちづくりのテーマ

市民や住民の心のふるさととなるような「美しい港まちづくり」

将来像と基本方針

地域の将来像として次の3つを掲げ、その実現に向けた今後のまちづくりの基本方針を次のように設定します。

将来像1 市民に親しまれる港 ～名古屋の名所となる港まち～

港の魅力が満喫できる空間の創出

間近に港を感じることができるプロムナードや広場等を整備するとともに、これらの空間や海を活用したイベント等の充実により、他の地域にない魅力あふれる空間を創出します。

一日楽しく滞在できるまちの魅力づくり

大きな集客力を有する水族館の他に、新たな文化・アミューズメント施設や飲食・商業施設の立地を促進するとともに、築地口周辺における様々なイベントの開催、地域資源の発掘や有効活用等と合わせ、地区内を一日楽しく滞在しながら回遊できる魅力をつくります。

港ならではの景観形成

港に関わる歴史の保存、継承を図るとともに、名古屋の海の玄関口にふさわしい、港まちらしい景観を形成します。

将来像2 世界につながる交流拠点 ～多様な人と情報が交流する港まち～

国際交流機能の充実

海外の多様な文化等にふれる場や様々な国の人々との交流ができる場を提供することにより、国際交流機能の充実を図ります。

水上交通の拠点機能の充実

名古屋港、堀川、中川運河を利用した水上交通により、都心部との連携を図るとともに、世界につながる旅客船ターミナル等の整備により、水上交通の拠点機能としての充実を図ります。

将来像3 個性ある港まちづくり ～安全で特色のある港まち～

災害から命を守る防災体制の構築

地震・津波、高潮等の災害から住民・就業者、来訪者の命を守るため、防護機能の維持強化、地域の連携・協力による避難場所の確保・確実な避難誘導など防災体制の構築を図ります。

地域の魅力を知り・伝える取組みの充実

地域資源の発掘や地域の魅力を学び、体験する機会の充実を図り、より多くの人に伝わる効果的な情報発信を推進します。

暮らしに便利な特色のある商業空間づくり

地域住民の暮らしの利便性を支える商業サービス機能の充実と、子どもから高齢者まで幅広い層の住民から親しまれる空間として活性化を図り、域外からも人が集まる商業空間を形成します。

定住を促進する暮らしやすい快適な居住環境の形成

多様化するライフスタイルに合った住宅供給を促進し、緑や花のある潤いのある環境、交通事故や犯罪の無い安全な環境づくりにより、暮らしやすい快適な居住環境を形成します。

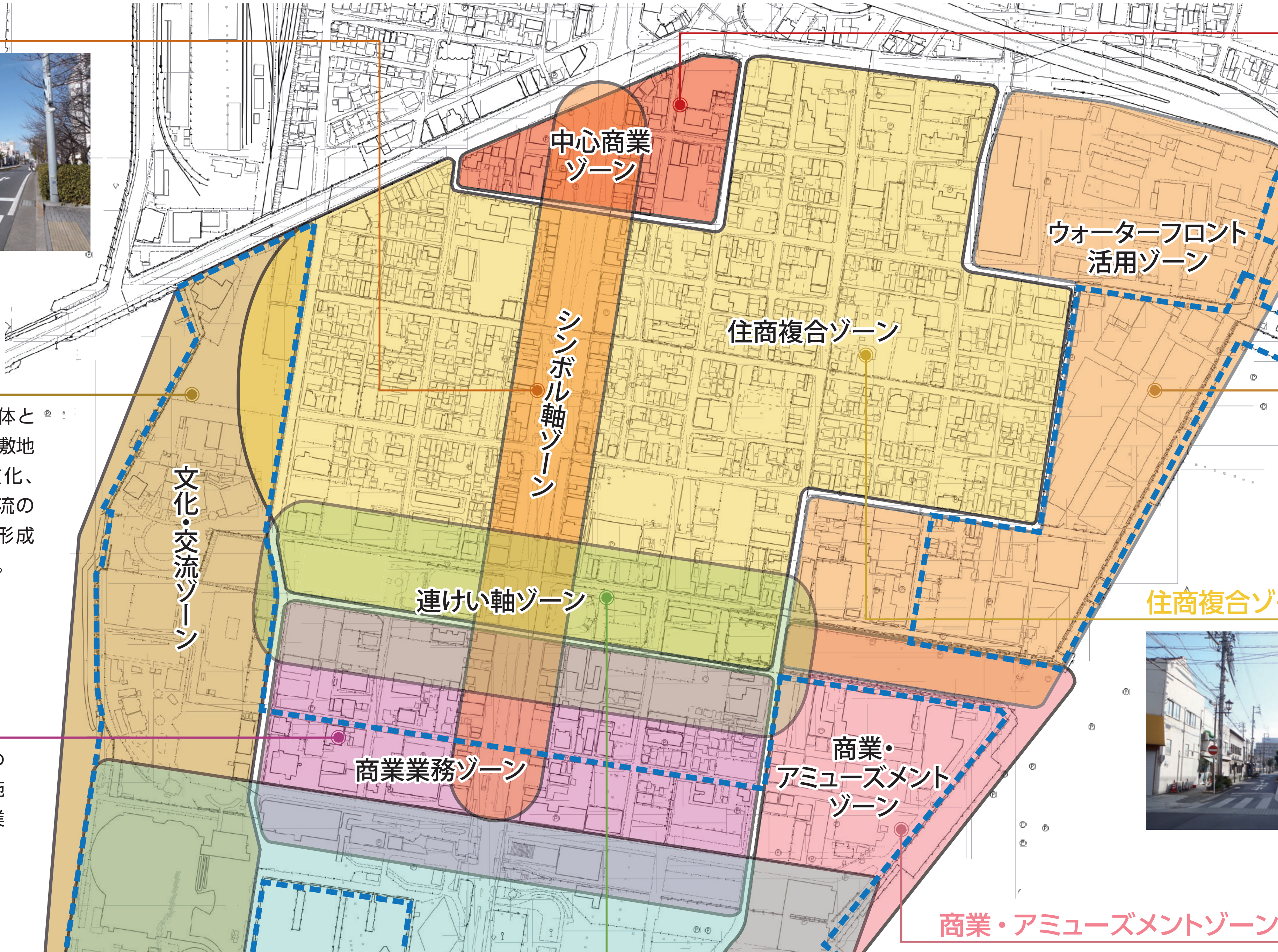
新たなチャレンジができる機会の充実

地域の魅力とにぎわいを創出するため、未利用地や空き店舗、道路や公園などの公共空間及び、港まちならではの地域資源等の活用により、新たな事業（イベント、サービス、ビジネスなど）にチャレンジできる機会の充実を図ります。

土地利用の方向と目標

土地利用のゾーニング図　3つの将来像の実現に向けた、地区の望ましい土地利用の方向を示します。

臨港地区※
※港湾の管理運営を円滑に行うために港湾管理者（名古屋港管理組合）が管理する区域



シンボル軸ゾーン

築地口、港橋、ガーデンふ頭入り口を核としつつ、緑道と沿道の建物（景観）が一体となった利便性の高い商業・サービス機能が連続する空間づくりをめざします。

文化・交流ゾーン

水際線と一体となった大規模敷地を活かし、文化、レジャー、交流の複合空間の形成をめざします。

商業業務ゾーン

港湾関連業務機能を中心に、地区の再編にあわせ、交通の利便性や港の眺望を活かした宿泊施設、レクリエーション機能、業務機能を支える商業施設などの新たな機能の導入をめざします。

海洋文化・レクリエーションゾーン

水族館やガーデンふ頭臨港緑園などを核とした海洋文化・レクリエーション機能の充実をめざすとともに、国際都市名古屋の海の玄関口としての世界に開かれた海上交通の拠点づくりをめざします。

中心商業ゾーン

地域住民に親しまれ、利用される商業地としての活性化をめざします。

ウォーターフロント活用ゾーン

大規模敷地の土地利用転換が行われる際には、ウォーターフロントという立地条件を活かした住宅や商業施設など一体的利用の誘導により、地区に新しい魅力を生み出すことをめざします。

住商複合ゾーン

商業施設と住宅が共存した活気ある市街地の形成を図るとともに、江川線の後背地については、まちなみや住環境に配慮した利便性と良好な生活環境を兼ね備え、安全で安心して住み続けることができる市街地の形成をめざします。

商業・アミューズメントゾーン

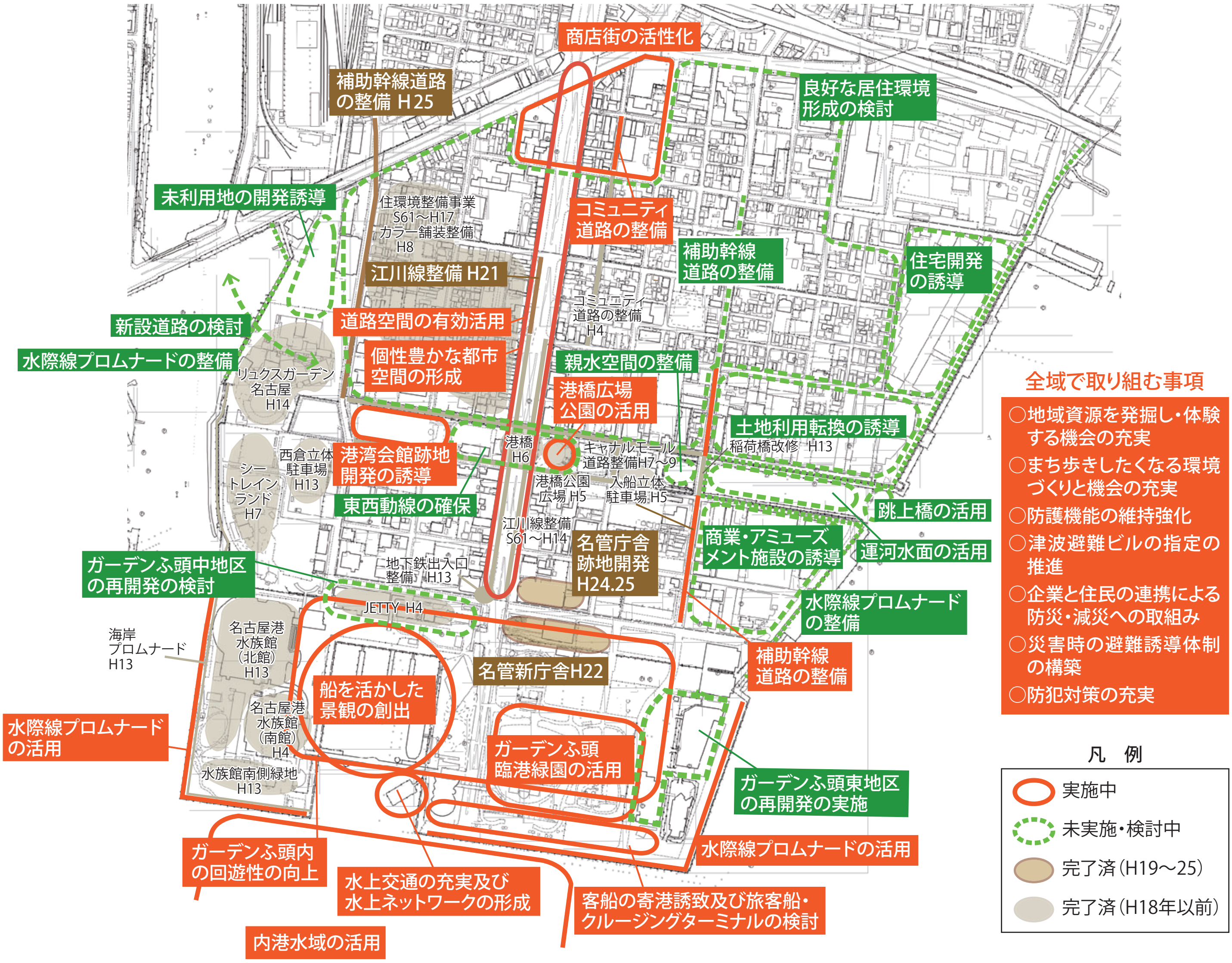
歴史的港湾施設の保存・活用に努めるとともに水辺を活かした港湾整備を行ない、異国情緒やロマンを感じるような商業・アミューズメント空間の形成をめざします。

連けい軸ゾーン

東西のウォーターフロントを結ぶ軸として、イベント等ができる交流空間などとともに緑と水の憩いの空間づくりをめざします。

まちづくり構想図

まちづくりを進めていく上での具体的な取組みと想定される箇所を示します。



計画の推進イメージ

まちづくりの指針・計画	**築地ポートタウン計画** （概ね5年ごと見直し）
取組み・計画の推進	行　政（名古屋市・名管）／企　業／住　民／住民団体〔港まちづくり協議会 等〕 各主体が計画の趣旨に沿った取組みを実施
	↕ 情報提供・協議等
進行管理	**港まちづくり連絡会**※ 住民、企業、行政等が連携・協力して事業を展開（情報の共有・集積・意見交換など）

※地域住民・商店街・港湾関係者・名古屋市・名古屋港管理組合といった幅広い関係者が、相互に連絡調整を図り、魅力ある港まちづくりを推進するために、平成4年に設置された組織。

問い合わせ先

名古屋市住宅都市局都市整備部 臨海開発推進室
Tel.052-972-2717　Fax.052-972-4161

名古屋港管理組合 建設部総合開発室
Tel.052-654-7986　Fax.052-654-7992